

## 第27回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年 6月 16日（木）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席11人  
出席委員 荒木千恵子、大江宏(会長)、河本美代子、草苺正行、  
佐藤壽、田中茂利、寺嶋均（副会長）、時津直子、  
中澄子、藤生よし子、松井和夫
- 4 出席者  
事務局 浜三昭、内藤和男、澤田忍、荻原正樹、佐藤昌一、奥山尚、飯泉研、  
深井恭、飯高秀男、和田良英、高畑智一  
J F Eエンジニアリング株式会社  
パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 0人

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項  
(1) 第26回市民検討会議事録の確認  
(2) 第14回ふじみ衛生組合地元協議会について  
(3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
- 4 協議事項  
環境学習機能について
- 5 その他
- 6 閉会

**【配布資料】**

議事次第

【資料1】 第26回ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

【資料2】 環境学習機能についての基本的な考え方（たたき台）

【資料3】 環境学習機能（たたき台）

**【会議録】**

午後7時 開会

1 開会

【事務局挨拶】

【配布資料の確認】

2 会長あいさつ

【会長挨拶】

3 報告事項

(1) 第26回市民検討会議事録について

【事務局説明】

会 長 : 何か気づいた点はあるか。あれば事務局の方へ連絡するように。

(2) 第14回ふじみ衛生組合地元協議会について

【事務局説明】

(3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

【事務局説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。

#### 4 議題

##### 環境学習機能について

会 長 : 環境学習については、今回と次回で、施設に関するハードの面を、ソフトの面については、次回、それ以降でまとめていきたい。  
それでは、事務局、説明をお願いしたい。

##### 【事務局説明】

会 長 : 何か質問等はあるか。

F 委員 : 受付のところは、みんな、どんなところかと思ってわくわくしながら入ってくる。ごみ処理施設に来てよかったなと思うような工夫をしていきたい。

メディアウォールは何台ぐらい置くのか。その使い方、説明する人は、など検討したい。

太陽光の発電所は4階やその上にも設置をするのかどうか確認したい。

会 長 : 今の質問に回答お願いしたい。

事務局 : 受付については、イメージである。委員からの意見等を踏まえて、来た方が気持ちよく過ごせるようにしたいと考えている。

メディアウォールは、非常に大きなものである。スペース的には1台しか置けないと思っている。個人の場合、1階で受け付けをし、説明員がつくことを考えている。メディアウォールについては、説明員が操作方法を説明するので、操作についての心配は要らないと考えている。

3階にある太陽光パネルは、見学用の見本であり、多くの太陽光パネルは4階に設置される。

A 委員 : 太陽光パネルの発電量は。

事務局 : 10キロワットを予定している。

会 長 : 他に意見はあるか。

C 委員 : 不燃ごみの分別、粗大ごみはどうやって処理されるのか、資源ごみ、紙などはどうなっているのか、など、全体を見せることが必要ではないのか。

事務局 : 3階については、ごみ全般、ごみ量や、3Rなどのコーナーを設けたいと考えている。実際のリサイクルの仕方などは、例えばふじみ衛生組合でペットボトルを圧縮梱包しているので、そういったもの見本もスペースがあれば置くことも可能ではないか。ペットボトルからできた洋服など、リサイクル品の展示も3階がよいのではと考えている。

C 委員 : 広さや、時間的な制約等もあると思うが、パネルでこうなっていますというのではなく、現場を見ることが必要ではないか。

事務局 : 不燃物処理資源化施設の見学については非常に議論をした。実際問題として、今の交通動線等を考えると、焼却施設から不燃物処理施設へ行く間、そして不燃物処理施設を一周して見るのに、収集車両を横切らなければいけないなど、非常に安全の確保が難しいと考えている。小学校の団体が80名、100名単位で来た場合には、安全に誘導するのは難しいだろうと考える。そこでどのように見ていただくかであるが、1つはビデオ等で見する方法、もう一つは不燃物処理施設にモニターを設け、その画面を、例えば大研修室で見する方法。当面はそういった対応を考えている。

不燃物処理施設も、平成7年に稼働して十数年たっている。将来的には建てかえの時期を迎えるので、もし、ふじみ衛生組合の中で建てかえるのであれば、例えば可燃施設と不燃物処理施設を連携して、不燃物処理施設も見れるようなつくりにはできると思うが、現時点で不燃物処理施設を団体で見るのは安全上難しいというのが、ふじみ衛生組合の結論である。

会 長 : モニターで見るというのはなかなかいいアイデアである。十分検討してほしい。

A 委員 : 個人では見られるのか。

事務局 : 人数にもよる。少人数でどうしてもということであれば、安全が確保できることを前提に可能ではあると思う。

A 委員 : 市民がきちっと分別しないで出すと、処理するのがいかに大変かということ、きちっとPRして、分別を徹底させるようにしなけ

ればいけないと思う。

E 委員 : 新しい施設中で3Rをしっかりと見てわかるような、そういうものを展示していただきたい。

例えばリサイクル展示室みたいなものを設け、体験的な展示と実験と兼ねたようなものが必要ではないか。

会 長 : 展示と実験を兼ねたようなもの。体験学習といってもよいか。

E 委員 : 体験学習も必要だが、やはり、ごみの問題は深刻である。地域でも、3Rをきちっと徹底させていけば、ごみは自然的に分別されていくと、私は考えている。したがって、そういうことを徹底させる教育も必要であるし、教訓にして、分別して再生されたものを展示する。そういう展示室みたいなものを設けてほしい。

会 長 : ここには不燃施設があり、今回、焼却施設が新しくできる。本来、一体化したもの、同じ敷地内にあるので、両方見学できればいいのだが、危険性の問題などによりできない。当面、焼却施設で代替できるような形を、できるだけ取り入れるということだと思う。

他に意見はあるか。

I 委員 : ビオトープや屋上庭園の管理は、だれがするのか。

会 長 : 事務局、回答お願いしたい。

事務局 : 焼却施設を運転、管理する会社、エコサービスふじみ株式会社が行う。

I 委員 : トイレは、今ほとんどが洋式であるがどうか。また、スロープとか、手すりなどはつくのか。

会 長 : 事務局、回答お願いしたい。

事務局 : トイレは、洋式を多くしている。また、バリアフリーで、手すりも設置する予定である。

会 長 : 洋式を多くということだが、和式は必要なのか。

事務局 : 和式は、1階に男女とも1カ所ずつある。それ以外は洋式である。

会 長 : 何対何ぐらいの割合か。

事務局 : 1階、2階、3階、4階、各階にトイレはあるが、その全部のトイレのうち、和式は1階の1カ所ずつだけ、残りは洋式である。

- I 委員 : 障害者用のトイレは設置するのか。
- 事務局 : だれでもトイレとして、三鷹のまちづくり条例、調布の福祉のまちづくり条例にのっとったものを設置する。
- 会 長 : 各階に設置するのか。
- 事務局 : 各階に設置する。男性も女性も、車いすの方も、だれでも使えるものである。
- E 委員 : シンボルマークのことだが、環境デーのときも小学生から募集を  
して、すごく良いものがある。市民というよりはむしろ子供を  
対象にして、つくったほうが、親しみやすく、子供たちも多く関心  
を寄せるのではないかと思う。
- 会 長 : 子供に募集をかけて、出してもらおう。
- E 委員 : すごく良いものがある。
- 会 長 : それも確かに良い。
- 事務局 : 本日の意見も踏まえて、前向きに考えたい。
- H 委員 : タービン発電量7,200キロワット、売電量が4,130である  
と、この施設の電気使用量は、この差分が全体の電気使用量という  
ことか。このタービン発電量だけで賄っているということか。
- 事務局 : 考え方はそのとおりである。タービン発電量から売電量を引くと、  
残りが施設で消費している電力になる。今回資料で使った数字はあ  
くまでも仮の数字。実際はおそらく千数百キロワット程度しか、施  
設では使わないと思う。仮に7,200キロワット発電できるとし  
た場合、実際には売電は5,000キロワット以上できると考えて  
いる。したがって、焼却施設が動いている限りは、施設の電気はす  
べて賄うことが可能である。
- M 委員 : 千数百で処理ができるということだが、残りをすべて売電するの  
か。資源化施設があるが、そこで使う電力も、売電するうちの電力  
で補っていけるのかどうか。
- 事務局 : ふじみ衛生組合の敷地内にある資源化施設にも電力を送れないか  
ということだが、送ることは可能であり、そういう計画になっている。  
今、考えているのは、ふじみ衛生組合の資源化施設、三鷹市役

所等の公共施設、それから調布市のリサイクルセンターの建てかえ計画があるようなので、建て替えた後にはそちらにも送る予定である。

会 長 : 他に意見はあるか。

H 委員 : 例えば、電気が消えてしまったり、また、予期できないことが起きた場合の対応はどのようになっているのか。

事務局 : 震災等の災害対策についてであるが、震度5強以上の強い揺れを感じたときには、自動停止する機能を備えている。ただ、これはいきなり火を止めるわけではない。いきなり火を止めると、焼却炉の中にごみが残っており、有害な排ガスが出てしまうので、焼却炉の中のごみを焼却しながら止めていく。そのために非常用の発電機を設け、その非常用の発電機で、できる限り焼却炉を動かしながら、安全に止めるという仕組みである。一度火を止め、焼却炉を点検し、問題がなければすぐに動くかというところ、そこで一つ課題がある。焼却炉を動かすには、やはり電力が必要である。その電力は、非常用発電機の電力だけでは賅えないので、もう一度火をつけるには、東京電力から電気を供給してもらわなければならない。ただ、通常一般家庭に行っている電線ではなくて、6万6,000ボルトの特別高圧電力であり、この電力の供給がストップするというのは非常にまれであるので、比較的早い時間に復旧できるのではないかと考えている。

もう一つの課題は水である。焼却炉を運転するには水が必要である。電力が復旧しても、水道が復旧しないと、焼却炉を動かすことはできない。施設を点検して安全が確認でき、電気、水が来れば火をつけることが可能である。一度火をつけてしまえば、今度は自分の施設で発電できるので、施設周辺が停電となっても、ふじみの焼却施設は稼働し、ふじみの焼却施設から電力の供給を受けている不燃ごみ処理施設等は、稼働することが可能となる。

会 長 : 想定外にならないように、十分やらなくてはならない。耐震強度について確認したい。

事務局 : 耐震強度は、非常に厳しい数値、通常の耐震強度の1.25倍の係数を掛けている。また煙突についても、構造計算等をし、大臣認定を受けているので、震度6には耐えられると想定している。震度は、7が最大なので、7に耐えられると言うとすべての地震に耐えられるということになるので、あえて7とは言わない。建物、煙突ともに、震度6台であれば問題ないと考えている。

ただし問題は建物や煙突が大丈夫でも、ダクトや配管、そういったものが曲がってしまう可能性はゼロではない。そういう場合には、点検、取りかえ等が必要になる。

副会長 : 想定外のことまでもやはり考慮しておかなければ、ということが盛んに言われている。東北大震災後、地震で停止して、中の被害状況を調べているが、大きな被害は出ていない。大体、2週間から1カ月以内で、大部分の工場は焼却可能な状態に復旧している。今回の東北大震災は未曾有のとか、想定外と言われるぐらい、大きな地震だと思われるが、ごみ焼却施設の建物が倒壊したとか、設備が大きく損傷したということはなく、かなり丈夫にできているというのが実感である。

震度5以上になると、自動的に、あるいはボタン1つ押せば全部止まるようなシステムになっている。一たん全部電気がなくなると、ごみを燃やしている、焼却炉の火格子の下から空気を送っている、送風機も止まってしまうから、炉の中は急激に温度が落ちる。それが爆発的な形での現象になるかといえばそれは考えられない。事実、東北地方でも、そういう現象は起きていないし、新聞でも、どこかのごみ焼却工場が倒れたといった記事はどこにも出ていなかったかと思われる。

会 長 : 中越地震のときは、被害があったと思うが。

副会長 : 中越地震のとき、煙突が途中で崩れるような形で沈み込んだ。私はこの会議で随分前に、煙突は非常に丈夫にできているので、建物が壊れても煙突だけは壊れないというようなことを説明したかもしれないが、そういう沈み込むような現象がなぜ起きたのか早速問

題になり、いろいろ解析したところ、非常に周期の長い、ゆっくり揺れる地震が来たときに、この煙突が地震の揺れに応じて、共振することがあり、ちょうど真ん中部分に一番力がかり、崩れたことが判明した。それで、その後すぐに、国は煙突の構造設計指針を変えた。ふじみの煙突は、その新しい強化された設計基準に対応してある。

会 長 : 他に意見はあるか。

L 委員 : 建てている場所の地盤が、やわらかい、かたいで、揺れが出てくると思うのだが。ここはどうなのか。

副会長 : 下町などから比べたら良いと思われる。

事務局 : かたく、いい地盤である。

G 委員 : 今回の地震で立川断層がすごく動いた。それによって直下型の危険性が強いということをテレビでやっていた。その直下型というのは非常に怖い地震だが、それでも大丈夫か。

事務局 : 立川断層で発生すると想定されている地震のマグニチュードが7.4と推定されているので、7.4であれば直下型でも問題なく、倒れないと考えている。

A 委員 : 断層からどのくらい離れているのか。

事務局 : 立川断層は立川市、国立市、府中市を通過して、稲城市へ抜けているので、20キロくらいは離れているのではないかと。

会 長 : 他に意見はあるか。

F 委員 : 3Rがすごく大事だということはわかるのだが、展示のところに、リサイクル品として洋服とかに変わるとあまり宣伝されると、いくらペットボトルを使っても大丈夫だというような気持ちになりかねない。結局はまたそれはごみになる。

だから一番肝心なごみを増やさないようにするための、ひとつ、拡大生産者責任といって、生産者が自分たちで使ったものを、また再利用するためのものがつくられているのだから、そういうことを強調する。例えば蓄電池とかは、蓄電池の中に使われているものはまた再利用できるということ。そういうことを知らせることが大事

だと思ふ。

会 長 : 1階、2階、3階、それぞれコンセプトを持つ、3階は3Rを中心に学べる場にするという考え方だと思ふ。今、省エネ一つとりあげても、アンペアダウンなどいろいろな展開がされている。新しく変わろうとしているわけであるから、そういう先を見据えたコンセプトを、ということだと思ふ。他に意見はあるか。

M 委員 : 模型にするのか、メディアウォールにするのかという話が出たと思ふが、これはスペースの問題なのか、それとも何かほかにも理由があるのか。

会 長 : 大事なところである。事務局、回答をお願いしたい。

事務局 : メディアウォールを提案した理由について説明する。まず1点目、見学者が大人数の場合の見やすさである。見学者の大部分が小学生の社会科見学となる。このような大人数の人が来た場合には、施設模型では一度に見られる人数が限られてしまうという。メディアウォールの場合、大きな画面で、一度に大人数で見ることが可能である。また操作性についても、タッチパネルで広い年齢層に対応が可能ではないかと考えている。

2点目は必要な展示スペースの問題である。模型の多くは幅が大体2メートル、奥行き1.5メートル程度必要である。これを全周囲から見ると、さらに広いスペースが必要となる。一方、メディアウォールの場合、奥行きは1メートル程度、使用するスペースを節約できる。このスペースを節約することによって、処理不適合物など、ほかの展示物を置くことも可能であるし、見学者用のいす等を設置することも可能である。

3点目は、使用状況の問題。これまで多くの清掃工場で模型が使われているが、話を聞くと、年月が経過するにつれて、少しずつ故障等が発生し、修理の手間や費用がかかることから、だんだん使用しなくなる事例が散見された。メディアウォールの場合には模型に比べて、メンテナンスが簡便に行えるために長期間の使用に適していると考えている。

- 会 長 : 他に意見はあるか。
- L 委員 : 要望だが、完成後もこういうものも展示してほしいなどの意見を出したくなりそうな気がしている。それにはこたえもらえるようなゆとりを持ってほしい。
- 分別に関してだが、例えば歯ブラシ。歯を磨くのも練り歯磨きを少なくして、水を汚さないようにしているという人がいたり、それから練り歯磨きを使い終わって、どう処理したらいいのかと悩んでいる、切って、洗う、すると、今度は汚水、下水を汚す。このようなことにもこたえられる展示が欲しいと思っている。
- 会 長 : すごく大事な提案である。1階、2階、3階のコンセプト、ソフト、固定的なものではなくて、柔軟に対応できるようなあり方にしておかなければならない、ということだと思う。今わからないものも多く、またまた変わっていくわけである。
- 他に意見はあるか。
- A 委員 : 見学者の対応は誰がやるのか。1階に受付を置いて、個人の場合にはその人が説明をするということだが、確かにそれは個人に対して親切であるかもしれないが、人数が増えた場合、費用がかかるなど、その辺のバランスをどういうふうに考えているのか。
- それから、1階に展示するとのことだが、地球環境、温暖化など、内容については、ソフト面であるので今後議論するということでのいいのか。
- もう一点、ホールの置場などを、今日決めるとのことだが、項目を挙げ、委員の意見を聞いて、その上で決めてはどうか。
- 会 長 : 事務局、回答をお願いしたい。
- 事務局 : 1点目、見学者への対応は、誰が行うのか、ということだが、契約上、エコサービスふじみ株はお手伝いをするだけであり、ふじみ衛生組合が行うこととなる。ただ、ふじみ衛生組合の職員がその都度、見学を対応することになると、本来業務もあり、人件費の問題もあるので、環境学習に関する運営については環境問題に取り組んでいるNPO等の団体をお願いをするなど、現在検討中である。

2点目、ソフトについては、まだ時間があるので、今後も議論していただきたい。

3点目、次回までに決めるハードの部分について、資料館等の展示室を設ける、設けない。可動式の間仕切りを設ける、設けない。自動音声ガイドを設ける、設けない。また、トイレについては和式が1階に1つで、残りは洋式を考えている。それから、制作物として、模型にするのか、メディアウォールにするのか、その辺を今回と次回の2回をかけて議論していただきたい。

会 長 : 他に意見はあるか。

F 委員 : 生ごみが、ごみの中の重量の五、六割はあると思う。それを土に戻して、肥料にするとか、そういうところが、この中に全然ないのだが。例えば、4階に緑化があり、その中に生ごみの再利用化というのが、あってもよいのではないか。

会 長 : 事務局、回答お願いしたい。

事務局 : 生ごみの処理について提案をいただいた。コンポスト容器を例えばどこかに置くということであれば、可能ではないか。

G 委員 : 生ごみ関連のことで、バケツ方式の酵素による生ごみを処理する方法もぜひ展示してほしい。これは、生ごみが1週間程度で消えていくものである。できるだけ生ごみは焼却に出さないで、堆肥にするとか、消滅型にするとか、そういう方法もぜひ紹介したい。

事務局 : 生ごみ処理等の関係は、ソフト面に該当すると思われるので。ハード面について議論いただいたあと、ゆっくり議論いただきたいと思う。

H 委員 : 環境へのいろいろなアプローチが進んでいくと思われるので、資料館や展示室は可能であればあったほうがいいと思う。

会 長 : 他に意見はあるか。

I 委員 : 図書はどの程度の規模で置かれるのか。また、ごみの減量を考えるときに、いつの間にか物が増えている。もちろん3Rとか分別の啓発も重要だと思うが、ある程度生活の見直しというのもこれを機会に考えていく必要があるのではないか。それらについても啓発の

中に入れてもいいのではないかと。

事務局 : 図書については、1階のスペースを考えている。環境学習であるので、環境関連の本を中心に置きたい。すべて買うのではなく、三鷹市、調布市で廃棄する本が出れば、その中で環境学習に役立つものこちらにまわしてもらいたいようなことは可能だと考えている。

H 委員 : 模型とメディアウォールでは大体、金額はどのくらい違うのか。

事務局 : メディアウォールと模型では金額は多分違うと思われるが、今回はJFEと一定の金額で契約を済ませているので、どちらを選択しても契約金額に変更はない。そういう面では、同じと考えてよいと思う。

副会長 : 模型とメディアウォールとの違いの大きな点はもう一つある。模型の場合、大体1番目につくるのは工場の内部の機械の配置を示すような模型、これが一番複雑な模型だと思う。それ以外は、バグフィルタとか、焼却炉の部分、そういうものの模型をつくらうと思えばできるかもしれないが、ただ、模型の場合だと、全体のものと、それから部分のものと、たくさんつくっていかなくてはいけない。メディアウォールだと、大きな画面に断面図だとか、実際に回転するような、動いているような状況も、ソフトでできる。それからいろいろな機械について、形や、断面はこうなっていると、たくさんの機械を1台で説明できると思う。

模型の場合だと、見学に行くときによく見るような、工場全体の機械の配置されたものを1台据えてというケースが多いと思う。メディアウォールだと、そういうものも含め機械ごとに、画面上で機能を説明できるという点のメリットはあるのではないかとと思う。

C 委員 : メディアウォールというのは、例えばバグフィルタではどうなっているのかとか、部分的に関心のある場合は、何かそういうボタンを押すと、その部分が出てくるか。それとも20、30分かけて全体を見ていくのか、その辺はどうなのか。自分の関心あることはボタン1つで選択できるのか。

事務局 : メディアウォールは最初にソフトをつくるので、そのソフトをど

のようにつくるのか。例えば、バグフィルタの詳細なソフトをつくることを最初に決めておけば、それはボタン等で映すことができる。最初にソフトが入っていないと、見ることはできないので、メディアウォールに決定した場合は、どういったソフトを入れるか、この検討会でも意見をいただきたい。また、年数が経過すればソフトの更新も必要になってくると考えている。

会 長 : 今回、展示室、可動式の仕切り、いろいろなハードについての提案、トイレについての説明があった。これらについて次回、もう1回確認し、決めていきたい。ソフトの面については、これからもアイデアを出していきたい。今日はこれぐらいのところで、議論は一応打ち切りたい。特に意見はあるか。

A 委員 : 展示室はどこにつくれるのか。

事務局 : 展示室は、1階を予定している。

A 委員 : 154㎡の中につくるのか。

事務局 : そうである。

A 委員 : 図書室も兼ねてということか。

会 長 : 限定されたスペースである。もし展示室をつくった場合、最大限これぐらいだというのは、次回、事務局より具体的な大きさを提示してもらい検討するしかないかと思う。他に意見はあるか。

E 委員 : 地域との連携が大事ではないかと思う。ごみ対策の各区に運営委員がいるので大いに活用してほしい。

会 長 : 今日の議論は終了としたい。

## 5 確認事項

【次回は、8月3日（水）の午後7時に開催】

## 6 閉会

午後8時50分散会